

## 8) グローバリゼーション部門(部門責任者:後期)

鈴木一人(教授・国際政治)

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

2015年度は7月31日まで国連安保理の下にあるイラン制裁委員会専門家パネルに所属し、イランの核開発およびミサイル開発と武器禁輸違反の監視と報告を行う業務に従事していた。国連の現場で制裁の実務に携わることで、核不拡散体制の現状とその実践についての分析、またイラン国内の政治情勢や紛争が続く中東におけるイランの役割についての分析を進めた。さらに、業務としてイランのイスラム革命防衛隊に所属する個人などが国連によって制裁指定されていたこともあり、イランの軍事態勢や中東における軍事的な関与も分析対象としていた。加えて、イランの経済活動の中心を占める企業群が、革命防衛隊との関係を深く持っていたため、イラン国内の経済情勢や核・ミサイルに限定しない、幅広い経済活動の分析も行った。

これらの分析は学術的に公表される論文などには記載されることはなかったが、この経験を踏まえ、雑誌『中東研究』第525号に「イラン核合意の米・イラン関係への影響」と題する論文を発表した(2016年1月、15-23頁)。また、同志社大学で行われた日本安全保障貿易学会の研究大会で「国連のイラン制裁と制裁緩和後の状況について」という学会発表を行った(2016年3月20日)。加えてForesightという商業誌で「イラン核合意」の行方(上)(下)(2015年9月2,3日)という記事を執筆し、それ以降「国際機関の部屋」という専門家によるコラムの執筆も担当している。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

復職後はこれまでの研究テーマを継続し、科学技術とグローバル・ガバナンスの問題についてを継続して研究している。アウトプットとしては、岩波書店が展開した「日本の安全保障」シリーズの第七巻『技術・環境・エネルギーの連動リスク』の責任編集を担当し、序章として「科学技術がもたらすリスクと「人間本位」の安全保障」、また第9章として「宇宙安全保障」を執筆した。またCenan Al-Ekabi, Blandina Baranes, Peter Hulsroj, Arne Lahcen (Eds.), *Yearbook on Space Policy 2014: The Governance of Space* で”How Governance Models Affect Geopolitics: The Asian Case Study”という論文を発表した。また広島市立大学の広島平和研究所が編集した『平和と安全保障を考える事典』で「宇宙法」「国連宇宙空間平和利用委員会」他6項目を担当した。

学会等での報告としては、ロンドンの王立国際問題研究所(チャタムハウス)で行われた *Governing Complex Energy Systems: Challenges and Strategies for Japan and the UK* という会議で”Failures of governance and the Fukushima nuclear accident: What this means for the Japanese energy sector”(2015年5月6日)と題する福島第一原発事故をめぐるガバナンス問題を報告し、同じくチャタムハウスで行われた *Cyber Security and Space Security: Policy Solutions to Technical Challenges* という会議では”Cyber-attacks aimed at taking remote control of a satellite”(2015年7月16日)という宇宙インフラに対するサイバー攻撃に関する問題について報告した。また、韓国のソウルで行われた *The 14th Republic of Korea-United Nations Joint Conference on Disarmament and*

Non-proliferation Issues という会議では” Efforts to Establish a New Norm: International Code of Conduct for Outer Space Activities”（2015年12月7日）という、宇宙空間のガバナンス問題として現在取り上げられている「宇宙の行動規範」をめぐる問題について、韓国外務省と国連軍縮局の担当者とともに議論した。さらに、韓国の高陽（Goyang）市で行われた Peace in Northeast Asia and the Role of the United Nations: Goyang City Academic Conference for Sustainable Peace and Development of East Asia という会議では、” Japanese Perspective on the Role of the United Nations for a Peaceful Northeast Asia”（2015年12月14日）と題する、アジアの国際環境において国連が地域平和に果たす役割についてを発表した。ワシントン DC で行われた Space and Strategic Stability, National Bureau of Asian Research Workshop という会議では” Cooperative Approaches and Engagement”（2016年1月12日）と題する報告を行い、現代の国際安全保障における抑止戦略の中で宇宙システムが位置付けられている状況についてを報告した。また ORF Kalpana Chawla Annual Space Policy Dialogue, Second Edition という会議では、” Regional and International Cooperation?: Realities, Challenges and Prospects”（2016年2月25日）と題する報告を行い、アジア地域における宇宙協力と競争の関係を論じた。

#### その他(教育活動ほか)

復職後に「技術政策学」（公共政策大学院）、「政治過程論」（公共政策大学院、法学研究科、法科大学院共通開講）、「国際政治経済政策事例研究」（公共政策大学院、法学部、法学研究科共通開講）を担当した。

また、内閣府宇宙政策委員会の宇宙安全保障部会の臨時委員に任命され、国の宇宙政策の審議に参画した。